No.6 タイトル

『多様な関係者の連携による地域の歴史文化の継承に向けて』

～小山町文化財保存活用地域計画の作成～

会社名：株式会社フジヤマ　都市・地域創造部
主執筆者　　名前：髙橋 宏幸（課長補佐）
共同執筆者１　名前：川瀬 嘉恵（主任）　　共同執筆者２　名前：長谷川 渚

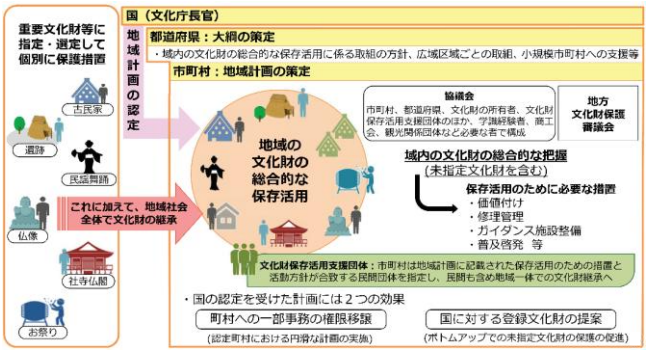
１．はじめに

（１）背景

我が国の歴史文化は、人口減少や少子高齢化に伴う担い手の減少や集落の衰退、価値観の多様化や生活様式の変化、頻発する大規模災害等を背景に、その継承が大きな課題となっている。

このような中、平成30年に改正、翌年４月に施行された文化財保護法では、これまで保存が中心であった法体系から、「保存」と「活用」の両輪による文化財保護が一層推進されるとともに、地域の歴史文化の総合的な保存・活用の基本方針となるマスタープラン、かつ具体的な措置を定めるアクションプランの性質を併せもつ「文化財保存活用地域計画」が法定計画として位置づけられた。

本稿では、静岡県小山町における、「小山町文化財保存活用地域計画」(以下、「地域計画」という。)の作成を通じた、小山町の歴史文化資源の保存・活用の取組について、建設コンサルタントとしての技術的視点から報告するものである。



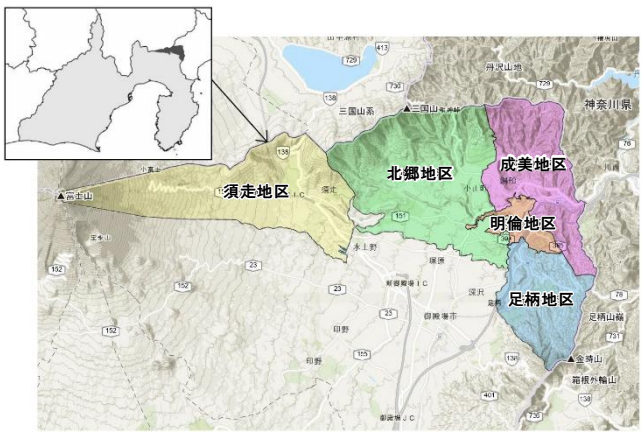
図−１　改正文化財保護法の概要（抜粋）
（出典：文化庁ホームページ）

（２）業務概要

本業務は、令和３年度から令和５年度までの３か年をかけ、地域計画の作成支援を行ったものである。発注者は小山町、受注者は株式会社フジヤマで、弊社はコンサルタントとして、文化財等の現状把握や地理情報システム（GIS）を活用した文化財分布解析、関係者ヒアリング、法定協議会の開催支援の他、地域計画の作成支援全般を行った。

（３）小山町及び町の歴史文化資源の概要

小山町は静岡県の北東端に位置し、町域の西端は世界文化遺産に認定されている富士山の山頂に達し、緩やかな傾斜をなす地勢である。町域の東は箱根外輪山系の尾根上から足柄峠を通じて神奈川県南足柄市に繋がり、古くは駿河国と相模国の国境の交通の要衝として栄えた。また、童謡や昔話にて有名な「足柄山の金太郎」の伝承が多く残される地であり、地域のアイデンティティの形成に重要な役割を果たしている。



図−２　小山町の位置と地区区分

町の歴史はその地形との関わりが強く、富士講などの富士山信仰や噴火による災害、足柄峠周辺に残る史跡や伝承、豊富な水源に起因した富士紡績株式会社（現在の富士紡ホールディングスの前身）の設立に伴う発展などが挙げられる。

図−３　世界文化遺産　富士山

一方、近年多くの自治体では地域の歴史文化の継承が困難となっているが、小山町においては人口減少や少子高齢化によるものが大きい。小山町の人口は、ピーク時の約28,900人（昭和35年）から令和６年８月現在では約17,000人まで減少し、また、令和５年に国立社会保障・人口問題研究所が発表した人口将来推計では、2050年における人口は約12,349人とされ、引き続き人口減少が進むことが予想されている。このような状況において、歴史文化の担い手の確保や、多様な主体と連携した取組が求められている状況である。

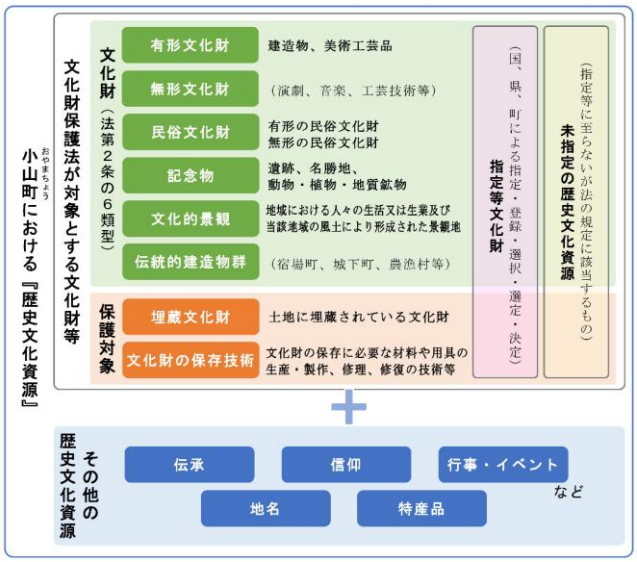
２．課題・問題点

地域計画の作成のポイントは、「①現状調査と地域の歴史文化の特徴の整理」、「②課題・方針・措置（具体的な事業）の整理検討」、「③関係者間の合意形成」である。

これらのプロセスにおいて生じた課題や問題点は次のとおりである。

（１）歴史文化資源の調査・整理

これまでの文化財保護の取組は、主に文化財保護法や自治体の条例に基づき指定された、「指定文化財」等がその対象であり、限定的であった。しかし、地域に存在する歴史文化にまつわる要素は多様であり、一般的には文化財として扱われない資源も多くある。地域の歴史文化を説明する上で多様な資源（本計画では、「歴史文化資源」と定義）を掘り起こすとともに、その特徴等をわかりやすく整理することが求められた。



図−４　小山町における歴史文化資源の定義

（２）地域課題と計画事業の整合性の確保

地域計画は地域の歴史文化の総合的な保存・活用の基本方針として作成するものであり、文化財保護の観点だけでなく、まちづくりや観光活用、あるいは防災対策など、多様な視点での方針設定が必要となる。そのため、地域計画の作成にあたっては、地域の課題抽出と地域計画において提案する事業の目的、課題に対する効果等を整理することが求められた。

（３）合意形成プロセスの構築

歴史文化資源の保存・活用には多様な主体の連携・協力が不可欠である。そのため、地域計画の作成にあたっては、行政内の関係部署だけでなく、文化財に関わりのある地域の関係者や、町民の幅広い意見を聴取するとともに、計画を円滑に進めるための合意形成のプロセスを設けることが求められた。

３．対応策・工夫・改善点と適用結果

前述した課題に対し、下記の対策を行った。

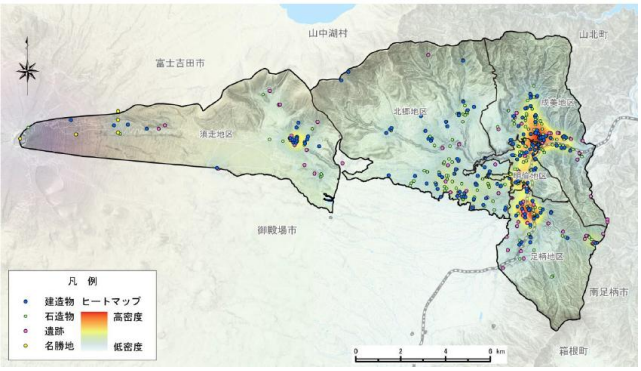
（１）歴史文化資源の調査・整理手法

地域計画の検討にあたっては、対象となる資源の明確化が基本的かつ重要なプロセスとなる。これまで、小山町で町役場職員や地域の有識者が中心となり、町史執筆にあたっての文化財の悉皆（しっかい）調査が行われたほか、地区別の文化財パンフレットの作成など、積極的な調査研究が行われていた。一方で、それらを総括した資料はなく、地域の歴史文化の全体像の把握は困難であったことから、以下の対応を行った。

①町の文化財リスト（令和５年時点の指定文化財は32件、未指定文化財は約７万件）を作成し、文化財の類型や地域別の整理を行った。これにより、歴史の豊富さや多様性の明確化にもつながった。

②整理の段階で明確になった文化財の位置情報をもとにその密集度を解析した。これにより、地域の歴史文化の特徴が明らかとなった。

③町史執筆に関わった有識者やボランティア団体など地域の文化財に精通した人材へのヒアリングを通じて得た、地域の歴史文化の特徴を「富士山」「産業」「足柄峠」の３つのキーワードから整理した。これにより、町民等にわかりやすく伝える等の成果につながった。



図−５　文化財の密集度（ヒートマップ）

図−６　整理された小山町の歴史文化の特徴

（２）計画品質向上のための管理手法

地域計画は文化財の保存・活用のマスタープランであるとともに、具体的な事業を定めるアクションプランとしての役割を併せ持つ。そのため、以下の対応により品質向上を図った。

①課題や取組、進捗状況等の情報をまとめた対応表を作成し、作業の初期段階から、発注者と受注者が情報を共有し、常に対応関係を意識しながら計画作成作業を進めた。

②受注者は、文化財だけでなくまちづくりや観光等に精通した技術者をチームに加えて作業にあたり、多様な課題に対し的確な方針や措置を提案することとした。

③計画作成に向けた法定協議会の開催や有識者へのヒアリング作業においても対応表を活用することで、各主体の抱える課題を把握するとともに、各々が今後取り組みたい事業の支援を可能にする枠組みを設けるなど、幅広い主体の自主的な取組を促すことにもつながった。

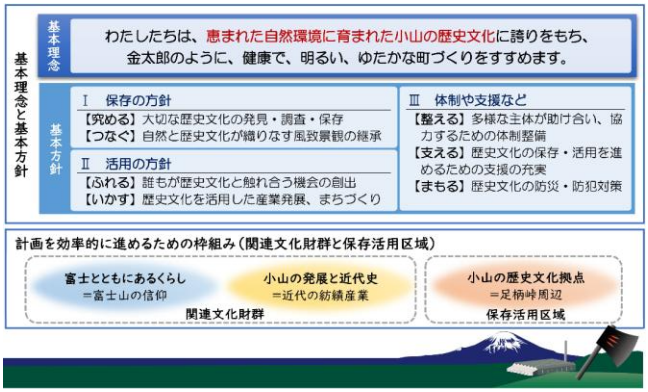
④当初段階から計画の骨格を作成することで、余裕をもって完成度の高い計画を作成することが可能となった。

（３）合意形成促進のための情報共有手法

①現状や課題、計画の目的や歴史文化の整理の方法をわかりやすく整理した「概要版」ともいえる資料を初期段階から作成し、共通の指針として運用した。具体的には、町全体の現状や課題、文化財を取り巻く状況を整理した上で、目指す方針や事業推進の枠組みを１枚のシートに整理すること

で、住民説明、行政の内部調整等、どのような場においても活用できる資料としてとりまとめた。これにより、検討段階においても目指すべき方向性が揺れ動くことなく、前述した協議会やヒアリングをスムーズに進めることが可能となった。

②計画の目指すべき方向性となる将来像や基本理念の設定にあたっては、小山町民により作成された「町民憲章」との整合を図ることで、町民に親しみやすい計画を目指すなどの工夫も行った。



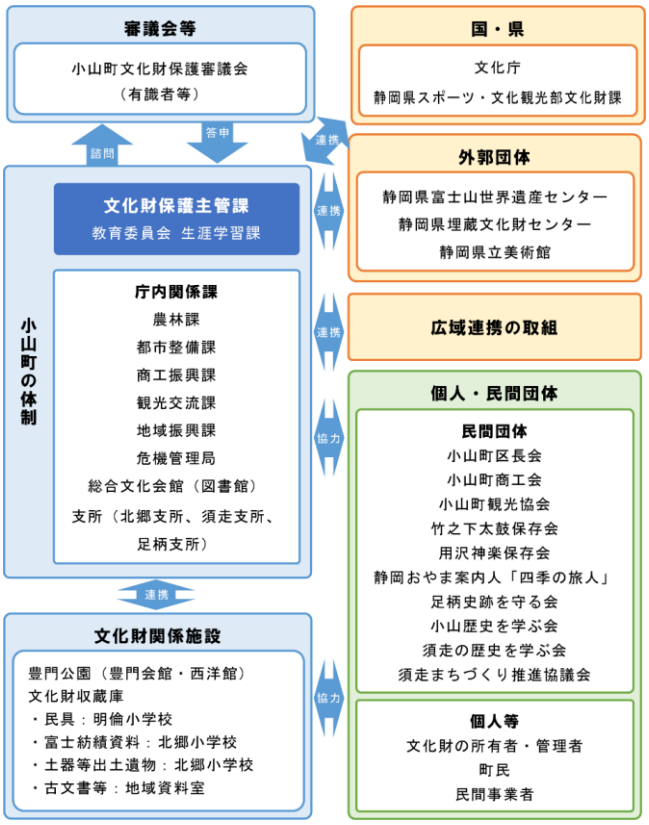
図−７　作成した概要説明資料（抜粋）

４．おわりに

文化財保護法の改正以降、令和7年7月18日現在で､210自治体の文化財保存活用地域計画が認定され､各々の自治体において戦略的な文化財の保存･活用の取組が進められている。弊社においても第１次の認定以降、幅広い自治体での計画作成に関わることで､文化財を取り巻く環境の変化を感じ、今後の発展に期待するところである。

本計画において題材とした静岡県小山町は、自治体としてはコンパクトながらも、日本一の山と名高い富士山を有し、豊かな自然環境を背景に多様な歴史や特産品が育まれ、日本を代表する英雄ともいえる「金太郎」の伝承が残るなど、非常に特色に富んだ自治体である。また、人口減少や高齢化、近年の生活様式の変化など、自治体を取り巻く環境は厳しい状況にありながらも、地域計画では前向きな姿勢を崩さずに、歴史文化資源の保存・活用を進め、多様な関係者の連携により、地域の活性化を目指している。

本稿をご覧になった皆様には、一度計画をご覧いただき、歴史と伝承が息づいた魅力あふれる小山町に訪れていただきたい。



図−８　地域計画の推進体制

図−９　活用の進む豊門公園（写真は西洋館）